

# ASIRU —アシル—

令和5年9月14日発行 第18号



## 単元（題材）を見通して、適切な評価規準の設定を

第15号では、「授業改善特集号」第1段として、国語科における単元の評価規準の設定について紹介しました。本号では、第2段として、「『指導と評価の一体化』に向けた学習評価に関する参考資料～小学校算数～」に掲載されている実践を基に、算数科における評価規準の設定等について紹介します。

### 事例1：【第3学年 A 数と計算（4）「除法」】単元名 余りのあるわり算

#### STEP 1 教材の特徴を把握し、育成を目指す資質・能力を明確にする。



小学校学習指導要領解説～算数編～p145等を参照し、単元の内容と照らし合わせて、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」の目標を設定します。

##### 1 単元の目標

- (1) 割り切れない場合の除法の意味や余りについて理解し、それが用いられる場合について知り、その計算が確実にできる。
- (2) 割り切れない場合の除法の計算の意味や計算の仕方を考えたり、割り切れない場合の除法を日常生活に生かしたりすることができる。
- (3) 割り切れない場合の除法に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。



小学校学習指導要領解説～算数編～p30を参照しながら、当該単元の学習内容を踏まえて「主体的に学習に取り組む態度」の目標を設定します。

#### STEP 2 3 観点の関係性を適切に把握し、評価規準を設定する。



本実践の第1時では、前単元までに「知識・技能」として身に付けた力を活用させて、「思考・判断・表現」する児童の姿を目指し、評価規準と正対した学習活動を位置付けています。

また、児童が、単元を通して、身に付けた「知識・技能」を活用させて「思考・判断・表現」することができるよう、「知識・技能」と「思考・判断・表現」を往還させた「意図的・計画的な指導と評価の計画」を構想しています。

##### 2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①包含除や等分除など、除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知っている。	①除法が用いられる場面の数量の関係を、具体物や図などを用いて考えている。	①除法が用いられる場面の数量の関係を考え、具体物や図などを用いて考えようとしている。
②割り切れない場合に余りを出すことや、余りは除数より小さいことを知っている。	②余りのある除法の余りについて、日常生活の場面に応じて考えている。	②除法が用いられる場面を身の回りから見付け、除法を用いようとしている。（「わり算探し」など）
③除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできる。		



本実践では、単元の序盤や終盤のみで「主体的に学習に取り組む態度」を評価するのではなく、単元を通して「主体的に学習に取り組む態度」の高まりを見取ることができるよう、単元の序盤や中盤、終盤に、「思考・判断・表現」と一体的に捉えて評価することに留意しています。



第15号で紹介したとおり、評価規準を設定する際、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の関係性を適切に捉えることが大切です。

「知識・技能」と「思考・判断・表現」を往還させることなく、「知識・技能」に偏った指導を行うと、資質・能力をバランスよく育成することが難しくなります。

下の表のように、「知識・技能」を活用させて「思考・判断・表現」する児童の姿や、「主体的に学習に取り組む態度」を高める児童の姿を具体的にイメージし、意図的・計画的な指導と評価の計画を構想することが大切です。

時間	ねらい・学習活動	評価規準（評価方法）		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	余りがある場合でも除法を用いてよいことや、答えの見つけ方を具体物や図などを用いて考える。		・思①（行動観察、ノート分析）	・態①（行動観察、ノート分析）
3	余りがある場合の除法の式の表し方や、余りなど用語の意味を知る。 余りと除数の関係を理解する。 ・余りと除数の関係を調べる。	・知①（ノート分析） ・知③（ノート分析）		
4	等分除の場面についても余りがある場合の除法が適用できるかを考える。 ・等分除の場面で、答えの見つけ方を考える。		○思①（行動観察、ノート分析）	
5	余りがある場合の除法計算について、答えの確かめ方を知る。	・知②（ノート分析）		
6	日常生活の場面に当てはめたときに、商と余りをどのように解釈すればよいかを考える。 ・商に1を加える場合や加えない場合について、それぞれ考える。		・思②（行動観察、ノート分析）	○態①（ノート分析）
8	学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。（章末問題）	・知①②③（ノート分析）		
9	学習内容の定着を確認する。（評価テスト）	○知①②③（ペーパーテスト）	○思②（ペーパーテスト）	
10	学習内容を適用して除法の問題を考えたり、解決し合ったりする。			○態②（ノート分析）



目標や評価規準を設定する際は、「学習指導要領」と「『指導と評価の一体化』に向けた学習評価に関する参考資料」を基に目標や評価規準を設定するなど、育成を目指す資質・能力を明確にするとともに、単元（題材）を見通した指導と評価を意識しましょう。

### <義務教育指導班からお知らせ>

- ①本号では、算数科における単元を見通した評価規準の設定等について紹介させていただきました。第11号「学習指導案の作成」や、第15号「授業改善特集号～国語編～」等と併せて、校内研修等で御活用ください。
- ②各教科等における個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた取組の具体については、第16号及び第17号「学校力向上に関する総合実践事業 第2回地域協議会」を御覧ください。
- ③自校の授業改善等に向けて、是非、オンライン相談を御活用ください。相談に係るお問い合わせは、下記までお願いします。（担当：主任指導主事 齋 0154-43-9283）